

でんでら通信 第百三十七号 令和七年九月

秋の永代供養会

九月二十七日(土) 午後二時より

法話 本山巡教師 静岡県長永寺住職、永田明徳師
どうぞ皆さん、万障お繰り合わせの上ご参詣ください。

坐禅会

九月二十四日(水) 十時に坐禅会を開催します。
みなさんのご参加をお待ちしております。

見えない品格

本当に今年の夏はいつまでも暑くてかたまりませんが、秋の来ない夏はありません。もう少しの辛抱です。どうぞ体調には十分お気をつけてお過ごしください。

さて今回はちよつと堅い話をどうぞ。
・駅のホームで、ベビーカーを押しているお母さんにそつと道を譲るサラリーマン

・レジで小銭を落としたおばあさんに「ゆっくりで大丈夫ですよ」と声をかける女子高生

それは拍手もされないし、称賛されることもありません。たわいもない行動といえ、それまでですが、それでも、確かにこの社会を少しだけ優しくしている人たちです。

彼らに共通するのは、「紳士・淑女としての品格」を、

自分の中に育てているということ。そこには、「静かな強さ」があります。

日本の武士道は、「礼に始まり礼に終わる」と説かれました。強さは内に秘め、外に出すのは思いやりと節度。真の強者とは、怒らず、奢らず、静かに己を律する者。みなさんにも今まで会われた方で、何かあの人は違った、という方方もみえたのではないのでしょうか。人の心を制し、場の空気を変えるのは、目に見えない「品格」という静かな力です。しかし今、私たちは品格ある人を見逃し、声の大きい人に価値を置いてしまっているのではないのでしょうか？

「みえないものは、評価されない」

「即断即決」が「有能さ」として称賛される現代の結果、「沈黙」「弱さ」とか「配慮」「損」という誤った価値観が生まれました。せわしない日常では、ゆっくり味わうもの、深く沁み込むものは後回しにされてしまう。

音も、色も、言葉も、何もかもが“大きければ勝ち”という風潮のなかで、慌てず、押し付けず、それでも場を整える力は、しばしば見過ごされてしまっています。

品格とは、見せつけるものではなく、にじみ出るもの。

それに気づくことは、自分の内側にもある「芯の強さ」「成熟」を育て直すことなのです。

心理学では、品格やたしなみといった内面の成熟が、他者からの信頼や影響力を生む、とはつきりと示されています。

「誠実さ・謙虚さ」が高い人ほど、信頼されやすくなる

・リーダーとして選ばれやすい
・対人トラブルが少ない
といわれています。

ある日、レストランで若い店員が老紳士のオーダーを間違えました。焦って謝る彼女に対し、老紳士はにっこり笑ってこう言ったのです。

「私も若い頃、よくやらかしたものだ。今日はのんびり楽しもうと思ってるんだ。大丈夫ですよ」

その瞬間、店の空気がふつとやわらぎました。これが“品格”の力です。

怒らずとも人を育て、叱らずとも空気を整える。それは一見、目立たない行動、ことば。

でも確かに、社会を内側から支えているのです。

品格は、伝染します。

沈黙の美しさ、誠実な行動、慎みのある言葉。

それは見えないけれど、確実に誰かの心に届いています。うるささや派手さがもてはやされる時代だからこそ、紳士・淑女のような静かな品格が、社会に希望をもたらします。

「人の一生は、最終的にその人の品格に左右され、品格は自分をどう形成するかにかかっている」

マーガレット・サッチャー(元イギリス首相)

目には見えない優しさ、謙虚さ、誠実さ、そんな品格のある人が社会いつぱいに広がれば、争いもなく、お互いをいたわれる素晴らしい世の中になるとでしょう。